

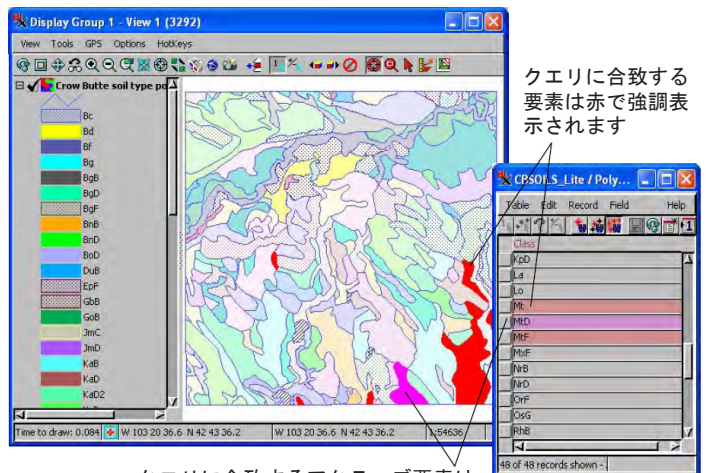
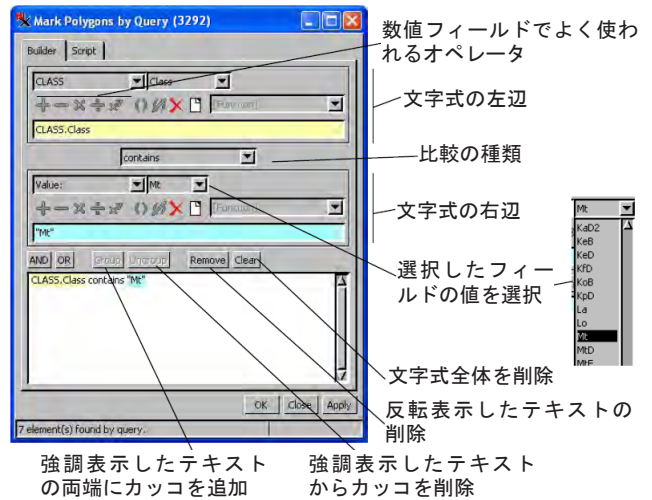
# 対話型クエリビルダー

TNT の表示では、属性を判別するクエリを使って各種幾何図形レイヤ中のポイントやライン、ポリゴン要素を選択できます。＜クエリによる選択 (Mark by Query)＞ウィンドウでは直感的なインターフェースを使ってクエリの構築や適用が行えます。このウィンドウを使うと文字式を対話的に構築できると同時に文法チェックも行えます。

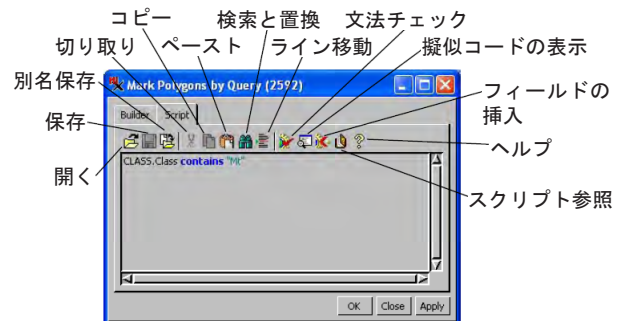
属性テーブルをクエリの式に追加すると自動的に表形式で開き、テーブルの内容が表示され、文字式の右辺または左辺で使えます。指定した要素タイプに対して利用可能なテーブルとフィールドが一覧表示され、それからテーブルとフィールドを選択します。“含む”や“より大きい”、“等しい”といった演算や比較のオペレータを一覧から選択し、文字式に挿入できます。他の演算オペレータや関数を文字式の右辺または左辺に追加することも可能です。左辺、比較オペレータ、右辺から成る文字式に対して、変更が行われる度に自動で文法チェックが行われます。[適用 (Apply)] ボタンをクリックすると、表示中のレイヤに文字式が適用できます。

対話型のクエリビルダーには以下の特徴があります。

- 入力用に選択したテーブルが開きます
- 式中の役割に応じて色分け表示されます
- 一覧からフィールド値を選択できます
- 選択したコンポーネントを使ってクエリを構築できます
- 別々のタブパネルにスクリプトを表示します
- 入力データの種類に応じて適切な比較を行います
- 次に進む前に式の完成を促します
- 強調表示したテキストの両端にカッコを追加します
- SML に組み込まれた定数が使えます
- 属性を持つ要素タイプが 1 つしかない場合はその要素タイプを自動選択します
- 数字や定数、テキストまたは既存のテーブルを選べます
- 数値用オペレータや関数の選択ができます
- クエリの文法を自動チェックします
- テーブルにフィールドが 1 つしかない場合は自動的に選択されます
- [スクリプト] パネルに直接クエリを入力できます



クエリに合致するアクティブ要素は明るい赤紫色（マゼンタ）で表示されます



[スクリプト] タブパネルでは標準的なスクリプト作成機能の他に、自分のスクリプトを保存したり以前に作成したスクリプトを開くことができます。